

2024年11月1日

中東関係者各位

九門康之

「中東なう」11月

1. 同時進行する衝突と融和

2024年10月1日、イランはイスラエルに対して2度目のミサイル攻撃を行った。イランは、8月来続いているイスラエルによる同盟関係者の殺害にたいする報復であるとした。これに対し、イスラエルは10月26日のミサイル攻撃で報復した。イスラエルは「イスラエル軍はイランの軍事目標に対する正確な攻撃を実施し、任務を達成した」と発表した。両者による報復の連鎖が懸念されるなか、イランのアラグチ外相は「適切な時期に反撃する権利を留保する」との発言にとどめている。

イランは、10月1日のイスラエル攻撃後、大統領自らカタールのドーハでサウジアラビアのファイサル外相と会談した。そののち、アラグチ外相はサウジアラビア、ヨルダンなどアラブ諸国を訪問した。会談の内容は公表されていないが、イランの立場を説明したものと思われる。また、サウジアラビアは衝突が自国の油田に影響しないことを求めたのではないかと推測する。

10月の中東主要国の動きは2022年以前であればありえなかったことである。一つは、イスラエルとイランが直接戦火を交えていること、二つ目は、イランとサウジアラビアが危機管理対応で対話をしていることである。これは、中東において「衝突」と「融和」が同時進行していることを示している。他方、イランやヒズボラと関係があり当事者であるはずのシリアは沈黙している。2023年にアラブ連盟に復帰した後、自らの立ち位置を変化させた可能性がある。今、中東のパワーバランスは岐路に立っているのかもしれない。

2. サウジアラビアが経済運営を転換

サウジアラビアが経済運営のたづなを絞っている。財務省が9月末に発表した2025年予算案によると、歳入は2024年度見込比4.3%減の1兆1,840億サウジリヤル(3,157億ドル)、歳出は同5.2%減の1兆2,850億サウジリヤル(3,427億ドル)といずれも減少する。同国は財政収支の均衡化を目標に掲げ、2022年に黒字化を達成した。しかし、その後の原油が1バレルあたり80ドルを下回る水準で推移したこと、および非石油関連の伸びがにぶかったことで歳入が十分に確保できないため、歳出の削減に踏み切ったものと思われる。

同様の動きは、国家資産を運用するパブリック・インベストメント・ファンド(PIF)の運営方針にも現れている。当初、PIFは他の湾岸産油国と異なり国内への投資を優先していた。その後、海外投資比率が上昇し、2020年には30%に達した。今月開催されたFuture Investment Initiative(FII)で、同比率を18~20%程度に引き下げると発表。海外資産拡大か

ら再び国内重視に回帰した。投資を国内に集中することで、国内の経済活動を刺激し、将来の税収につなげたいという意図があるものと思われる。同国は、国内経済構造を変革し、石油輸出収入依存型の経済から脱却しようとしている。そのため、巨額の資金を NEOM やインフラ開発に投じているが、PIF 資金の一部はこれらのプロジェクトにも追加投資されるものと思われる。資金の有効活用が今回の投資先修正となって現れた。

3. その他のニュース

●イラン、ロシアと天然ガスハブを計画（注：かつてトルコがロシアと同様の計画をもって
いた）●イスラエル、S&P が「A+」から「A」に格下げ●サウジアラビア、世界で最も高い
ビルの建設 2028 年完成を目指す●チュニジア、サイド大統領が再選●イラク、ジェット燃
料を輸出開始●ドバイ、2026 年までに支払いの 90%をキャッシュレスに●イラク、GCC と
電力網を接続●UAE、国民のレバノン渡航を禁止、違反者を調査●エジプト、鉄道が運河に
転落●サウジアラビア、リヤドメトロが近く営業開始●GCC、EU と初の首脳会合●エジプ
ト、2025 年にサウジアラビアと電力網接続●UAE、米国での火星探査計画に参加●トルコ、
ギュレン氏が死亡、83 歳●エジプト、イラクで医薬品国産に協力●エジプト、BRICS で地
場通貨間の決済推進を提唱●エジプト、中国とパレスチナ恒久的和平で意見一致●UAE、ル
ルスーパー、サウジアラビアで株式上場へ●サウジアラビア、製造業設置拠点建設開始、リ
ヤド近郊●イスラエル、国連 UNRWA のパレスチナでの活動を禁止●ドバイ、2025 年の歳
出を前年比 9%増額●

以 上